

医科研病院だより



第17号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
平成24年10月15日
〒108-8639 東京都港区白金4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

CONTENTS

セルプロセッシング・輸血部紹介	1
すこやか・カフェ	2
栄養サブリ	3
なんでも・ひろば	4

セルプロセッシング・輸血部紹介

講師 長村 登紀子

東大医科研輸血部は1990年、造血細胞移植や移植の増加に伴い輸血管理や造血細胞処理のために発足しました。

輸血関連では、2004年から院内オーダリングや輸血の管理もコンピュータ化が進み、輸血オーダや輸血時のコンピュータ照合等、より安全で確実な輸血を行い事故防止に努めています。特に造血細胞移植が盛んな当院では、患者さんは移植により、血液型がA型からB型に変わったりします。こういった状況での輸血検査は、熟練した専属の3名の検査技師が当たっています。

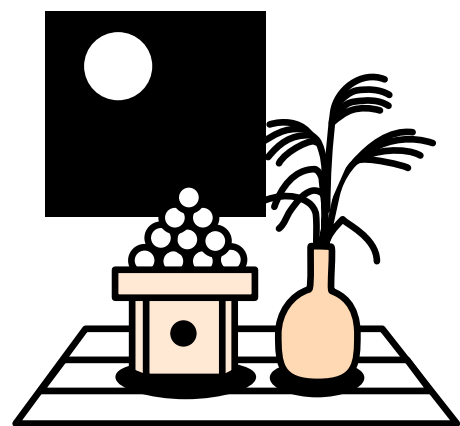
また、部門名もセルプロセッシング（＝細胞処理という意味）という名称を取り入れている通り、当院輸血部は発足当初より、骨髄・末梢血幹細胞移植のための細胞採取、分離・凍結作業のみならず、血縁者臍帯血の分離保存・検査やさまざまな先端の細胞治療のための細胞処理の支援を行っています。

こうした細胞処理を安全かつ円滑に行うために1997年、国内では初めての臨床細胞工学室（Room for Clinical Cellular Technology: RCCT）という臨床用に使用する細胞を製造するクリーンルームとバイオハザードルーム（P3）が臨床研究A棟に設置されました。2008年よりこれに付属した品質管理室、情報室、凍結保存室等と合わせて東大医科研細胞リソースセンターと命名され、輸血部スタッフが現行プロジェクト部門とともに運営管理やプロジェクト支援に当たっています。この東大医科研細胞リソースセンターのクリーンルームでは、1997年から2008年にかけて東京臍帯血バンクの細胞処理保存施設として約4500ユニットのプロセスが行われ、現在は輸血部が主体となって研究用臍帯血幹細胞バンク事業として引き継ぎ、臍帯血や臍帯の研究等を進めています。その他、これまでに樹状細胞療法、第I期歯槽骨再生医療（骨髄から骨を誘導します）が行われ、研究成果を上げてきました。2011年、第II期歯槽骨再生療法として方法の改良された新たな細胞培養が行われています。バイオハザードルームでは、過去、腎がんの遺伝子治療やAIDSの免疫療法が行われてきました。セルプロセッシング・輸血部は、自らのプロジェクトの推進とともに、他部門のさまざまな細胞治療プロジェクトの中継点としての役立っておりますことを、スタッフ一同誇りに思うとともに、新しい先端医療を支援・推進すべく（♯）

（♯）身を引き締めていきたいと思っております。今後とも、ご支援、ご指導の程お願い申し上げます。



クリーンルームでのプロセス風景



◆病院からのお知らせ◆

- 臨床検体の取扱いにつきまして
当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は
http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html
をご覧ください。

すこやか・カフェ



禁煙のすすめ

～禁煙治療のご紹介～

禁煙外来医療チーム医師 山川 彰夫

タバコが健康障害をひきおこす事は、誰もが認めるところです。「タバコ病」には、一番に連想される肺がん(図1)だけではなくCOPD(慢性閉塞性肺疾患)等の呼吸器疾患があります。タバコ煙には多くの発がん性物質と過酸化物質、一酸化炭素などが含まれ、肺から全身に血行性に運ばれたり、口腔から消化管に流れるため、煙が届く呼吸器系だけでなく全身の悪性腫瘍や虚血性心疾患や脳卒中なども喫煙者の罹患率が数十%ないし数倍程度上昇します。認知症についても喫煙者に患者が少ないという古い報告は否定的で、むしろ罹患リスクを高めるといふ報告が大勢です。



図1 78歳男性ヘビー・スモーカーの肺腺がんCT画像。○で囲った部分が腫瘍。CTで数mmのがんが見つけ得る。

社会の全体の流れが非喫煙の方に向かっているのは、数多くの基礎・臨床系の医科学研究によるタバコの害やニコチン依存のメカニズムの科学的理解に基づいています。受動喫煙により、タバコ煙が喫煙者の周囲の人たちの健康も損なうことがはっきりした事から、学校や病院をはじめ、公共機関、街頭や職場、レストランなどで喫煙が出来ない所が広がっています。喫煙者の家族や喫煙職場の肺が(♫)

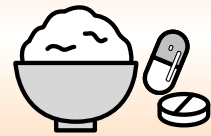
(♫)ん罹患率は3割程度、COPDや気管支喘息や他疾患も1.5～3倍程度リスク増加があると報告されています。

最近厚生労働省「健康日本21(第2次)」等の取り組みにおいても、喫煙率を12%以下に削減する数値目標や受動喫煙対策が強化されました。医科研病院の施設内は以前から全面禁煙でしたが、2012年10月からは医科学研究所の敷地内全てが「全面禁煙」になり、分煙場も廃止されます。これは、がん等の疾患の医科学研究と革新的診断・治療法の開発を進める研究所のミッションを考慮し、決定されたものです。

しかし、喫煙者の多くはこれらの健康上・社会上の背景を知り、タバコが自分や周りの人の健康に悪いのは十分理解しながら禁煙に踏み切れず、禁煙を始めても失敗している残念な事実があります。これはタバコ煙の中のニコチンが脳報酬系の神経細胞の受容体に特異的に強く結合し一時的な感覚刺激を起こし、長期に続くことで「身体的」と「心理的」の依存症を起こしている事によります。よく喫煙者は「タバコはストレスに効く」と言いますが、それはタバコ依存のため、ニコチン血中濃度が下がったときに身体的離脱症状として落ちつかなさやイライラ、時にはめまい、頭痛、眠気などが出るように身体が変化しているのです。起き抜け等にタバコを吸うことで離脱症状から回復することが、ストレス回復と誤って心理的に感じられるのだと科学的に説明されています。禁煙ができなかったり、禁煙できてもその後再喫煙してしまうのは、決して意志が弱いからではなくニコチンが悪いのです。

現在の禁煙治療では、ニコチン依存症に対する効果的治療法が開発され、薬物としては2種の薬を保険使用できるようになりました。禁煙の離脱症状を押さえるために以前からあったパッチなどのニコチン補助薬、あるいはニコチン受容体など脳細胞表面の分子に結合し離脱症状を消失・軽減する新しい内服薬です。その他に禁煙開始を助け禁煙を持続させるために十分な説明や心理療法的支援を医師とナース・薬剤師などの医療チームによる専門禁煙外来で対応をする事で禁煙導入と持続の成績が向上します。医科研病院でも所内向けに禁煙外来を開始しており、今秋から外来患者様や一般の喫煙者で禁煙治療希望の方にも対象を広げます。原病の治療への禁煙による悪影響を防ぐことも大切です。院内・院外の主治医と良く連絡を取る必要があります。体重増加への対応、ヘビー・スモーカーが罹りがちな疾患のスクリーニングも、放射線科医や循環器内科医、食事指導の専門家とも協力して対応します。外来受付は、主治医との相談あるいは病院HPの記載をご参照ください。是非お知り合いにもこの機会に禁煙治療をおすすめ下さい。

栄養サプリ



自分と
家族を守る

いざ！という時に備えてますか？



栄養管理室

水・食料・燃料など3日分は備えよう

家族構成に合った備蓄を！

水は1日1人
3ℓ程度

調理しないで
食べられるものが便利

慢性疾患がある

高齢者

赤ちゃん



その他生活必需品として

水分補給も忘れずに…



買い置き品でやりくりしましょう

3日を過ぎても復旧
しない場合に備えて…

家庭で使っている保存性の良い食品を少なめに
買い置きしておくで備蓄の代わりになります。



【主食】

【主菜】

【副菜】

【飲み物】

【調味料】

【その他】



使いやすいものを

開封後はすぐ使う

あると心強い

水は多めに

常に1つ余分に

食事の栄養補給に

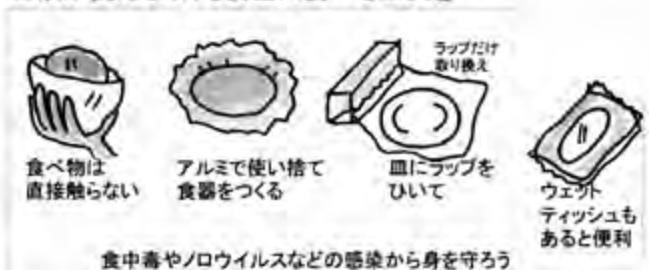
災害時の食生活で心がけてほしいこと

■食事は自分の体に合った量を

■水が使えなくても安全に食べる工夫を



慢性疾患（高血圧や糖尿病など）のある方は食べ過ぎに注意



食中毒やノロウイルスなどの感染から身を守ろう



中国雲南省への旅

感染免疫内科 岩本 愛吉

私が初めて中国に行ったのは2003年の秋でした。後天性免疫不全症候群や重症急性呼吸器症候群（SARS）など、感染症が中国で大きな問題となったのがきっかけです。2005年頃から中国行きが頻繁となりました。文部科学省の「新興・再興感染症拠点形成プログラム」によって、医科研が中国科学院を相手に感染症の日中共同研究を始めたからです。医科研の日中共同研究は第一期5年間を終了し、2010年度から第二期に入っています。北京には日本人研究者が常駐し、研究を進めています。一方、広大な中国を相手に、より広範囲な連携を持つことも私の任務となりました。中国では、南部の方が感染症の負荷が大きいので、中国南東部・広東省広州市の中山大学、中国南西部・雲南省昆明市の雲南省疾病予防制御センター（雲南CDC）と連携を始めました。

雲南CDCの李洪部長は、中国のいわゆる農村部の実態を私に見せつつ、感染症問題を私と協議したいと考えています。2010年には、昆明市からチベットに近い雲南省最北部まで、中国人研究者4名と車で旅行しました。今年は8月17日から22日まで、雲南省の最南端、ラオス国境まで行きました。雲南省は中国で最も少数民族の多いところですが、普洱（プーアル）茶として名高いお茶は、雲南省南部(↘)

の普洱市や西双版納（シーサンバンナ）自治州で生産されています。今回は、布朗（ブラン）族という少数民族の集落を訪れ、お茶栽培農家を訪問する機会がありました。ある農家のお茶室とそこからの景色を写真でお見せします。海拔約1,000mの山の斜面に20軒弱の家が点在し、電気や上下水道など生活インフラは極めて貧しいところです。しかし、特産のお茶という一次産業を持ち、4月、5月、夏に茶摘みがある生活は多忙です。そこには日本の地方が面している過疎の問題とは一線を画する風景や生活がありました。

中国に行くようになり、まずは中国に関する本を読むようになりました。しかし、知れば知るほど、「中国を知るためには日本を知らなければならない」と思うようになり、今は日本の歴史本をよく読みます。最近、親中か否か、中国が好きか嫌いか、といった二元論を良く耳にします。しかし、私は中国そのものの現実をもっと知ることが重要だと思っています。眠っていた龍は既に起ち上がっています。



東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

診療科

内科（総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、代謝・内分泌、循環器、消化器）

小児科（小児細胞移植）

外科（一般、腫瘍、消化器、乳腺）、整形外科（関節）

脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



外来診療日

月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）

診療受付時間

8:30～11:30（初診・再診）

12:30～16:00（再診のみ）

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

（確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください）

予約専用電話（予約受付および変更）

診察：03-5449-5560

検査：03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00（外来診療日のみ）

アクセス

- ・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
 - ・JR山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分（1メーター）
 - ・JR品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
 - ・東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台分ございます。ご利用は受付にお申し出ください。